

ふりがな	おおり やすひろ					
氏名	大 利 泰 宏					
区分	アドバイザー	コンサルタント				
専門分野又は得意とする分野 <p>旧・建設省（現・国土交通省）に入り、分野別に概ね、道路20年、河川10年、都市10年。国（国土交通省のほか、総理府、環境省）、県市での行政経験40年を経て、民間大手の総合建設コンサルタント10年、現在は、仙台市の規模は小さいが都市開発を長く手掛ける総合コンサルタントで社業のお手伝いを続けるとともに、30年前に自宅を建てた郷六町内の町内会長を務めている。</p> <p>政策・制度・仕組み、協働・連携と、大きなところから足元まで、広く知識と経験を持ちながら、今も、社会変化に対応すべく、勉強を続け、実践している。</p> <p>強みは、あえて言うなら「総合」、少子高齢化のなかでの「防災まちづくり」。</p> <p>各省庁の施策や事業等について、最終的に住民や地元企業との接点は、町内会組織や自主防災組織等が担っており、安全・安心・活力ある地域の維持・拡大は、法令に基づく組織とともに、地域に基盤を置く任意団体との協働が重要と考えていて、試行錯誤をしながら実践している。</p>						
主な実績 <table border="0"> <thead> <tr> <th>（活動時期）</th> <th>（活動実績）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年～令和6年</td> <td> 株オリエンタルコンサルタンツ東北支社で、一級建築士を必要とする管理技術者として、秋田県八森漁港上屋の設計・施工管理業務のほか、技術士（都市および地方計画）の有資格者が東京に集中配置され、東北には副支社長と私二人だったため都市部門や交通部門の受注業務の殆どについて、企画提案と品質向上に助言し、受注・高評価・表彰の下支えを行った。例えば「R4～青葉通りの社会実験」 </td> </tr> </tbody> </table>			（活動時期）	（活動実績）	平成25年～令和6年	株オリエンタルコンサルタンツ東北支社で、一級建築士を必要とする管理技術者として、秋田県八森漁港上屋の設計・施工管理業務のほか、技術士（都市および地方計画）の有資格者が東京に集中配置され、東北には副支社長と私二人だったため都市部門や交通部門の受注業務の殆どについて、企画提案と品質向上に助言し、受注・高評価・表彰の下支えを行った。例えば「R4～青葉通りの社会実験」
（活動時期）	（活動実績）					
平成25年～令和6年	株オリエンタルコンサルタンツ東北支社で、一級建築士を必要とする管理技術者として、秋田県八森漁港上屋の設計・施工管理業務のほか、技術士（都市および地方計画）の有資格者が東京に集中配置され、東北には副支社長と私二人だったため都市部門や交通部門の受注業務の殆どについて、企画提案と品質向上に助言し、受注・高評価・表彰の下支えを行った。例えば「R4～青葉通りの社会実験」					
資格 <ul style="list-style-type: none"> ・技術士 建設部門（①道路、②都市及び地方計画） 総合監理部門（道路） ・一級建築士 ・一級造園施工管理技士 ・宅地建物取引士、（マンション）管理業務主任者 						
まちづくりに関する活動履歴 <p>特に、災害からの復旧復興に関わっている経験が35年以上（豊富に）あり、現在も法令・制度等の改変、事例などを勉強しながら、それらを加え講師・講演を務めている。</p> <p>また、少子高齢化、老若男女総活躍時代ということで、デジタル時代の新しい手法、考え方、方法（HP等の活用）などを地域団体等（町内会・NPO・学会）で、試行・実践している。</p>						

まちづくりについて考えること

少子高齢化・人口減少のもと、災害多発時代を迎え、地方都市や各地域における「まちづくり」は、たくさんの課題を抱えている。

例えば、町内会は任意団体とされ不加入・脱会するのも自由だが、法令(災害対策基本法、地域防災計画等)に基づく自主防災組織は、結果としてその町内会が担う。福祉も国民保護(法)等も行政サービスの底辺は地元の任意団体が受け持つ。したがって、その衰退は地域の消滅に至ると危惧する。

<相隣・人間関係の希薄化>

行き過ぎた?…個人情報の保護、個人主義の進展により、表札や住所氏名を出さず、住民や地元企業にとって、近隣にどのような人がいるのかわからない現実が進行、常態化しつつある。

<情報の個人化と錯誤>

一方で、インターネット等の普及により、テレビや新聞を見ず、自分の趣味・趣向に沿った情報のみを選択することで、自分の考えが世界を代表する考えだと誤解する方も増えている。

<まちづくりの出発点>

「まちづくり」について考えるためには、まず、正しい(偏らず多様で正確な)情報共有が大切、で基本であるが、関心のない方に、関心を持ってもらうことは上記の通り容易なことではない。

<多様な方々に関わる大切>

参加する方が得意とするそれぞれの知識・経験を出し合い、繰り返し討論・意見交換し、それを活かすことが理想的。その工夫が(主体となるべき地域団体に)求められている。

<行政や支援組織の役割>

政策、制度、運用、他地域での事例(成功例のほか失敗例・改善例も)、などを、提供・支援。リーダーを育てる、必要な情報、事例を提供し、紹介・仲介する。

<総合的な支援・助言>

都市整備部局だけでなく、消防・防犯・警察、交通、経済産業、文科、農林水、環境等の分野からも、連携・連動した事例の紹介などの提供、支援・助言が必要に応じて行われることが望まれる。

<主役は地元>

主役・主体は、地元であることを、しっかりそれぞれが認識しつつ、関係者が一緒になって進めることが大切である。私は、これまでの経験・知識をもって、そのあたりを担いたいと考える。